

第221回 番組審議会

1. 日 時 平成25年4月9日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 11名  
出席委員数 7名 (欠席委員数 4名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)  
竹中 陽一 (副委員長)  
—以下50音順—  
木戸場美代子  
菅原 正二  
原 圭介  
役重 真喜子  
吉田 浩次

○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)  
小原 忍 (専務取締役)  
藤澤 利憲 (常務取締役)  
前田 秀男 (取締役編成技術局長)  
藤原 銀司 (取締役営業局長)  
菊地 十郎 (岩手めんこいテレビ報道部専任部長)  
藤堂 光隆 (岩手めんこいテレビ報道部)

○ 事務局 佐々木 久仁子

#### 4、議題 『mit 報道特別番組 響け！復興の槌音

～災後2年それぞれの被災地で～』

平成25年3月10日(日) 15:00～15:55放送

#### 5. 議事概要

今回は3月10日(日)の午後3時00分に放送された『mit 報道特別番組 響け！復興の槌音 ～災後2年それぞれの被災地で～』を審議しました。議事の概要は以下の通りです。

##### ● 岩手めんこいテレビ 菊地プロデューサーの説明

- ・ 毎日午後6時15分から放送している「mit スーパーニュース」の取材方針は、「被災地、被災者に寄り添う報道」。今回の番組はその延長線上に位置付けて制作した。4月からは、毎週木曜日のニュース内に「響け復興の槌音」という同じタイトルでコーナーを設け、継続的に取材し、来年以降も番組化して行く予定。
- ・ 時間の経過と共に防災意識が薄れていくという現実があり、それを防ぐ意味で積極的に取材し、全国発信している。日々被災者の状況を伝えることが使命だと考えている。
- ・ 発災以来、テレビに何ができるだろうと考えているが、未だに答えが見出せず日々問いかけながら取材している。

##### ● 藤堂ディレクターの説明

- ・ テレビの役割は、映像を通して視聴者に伝えること。この2年間の変化をいかに映像や音を通して伝えるのかに重きを置いた。
- ・ 陸前高田の人首ますよさんについては、震災前から震災後2年が経過し、表情や気持ちの変化を映像を通して視聴者に知ってもらいたいと思った。宮古の若いご夫婦川畑さんは、震災直後に「落ち着いたら連絡を下さい」とメモを渡したことがきっかけとなり、内陸に

避難した時、そして又沿岸に戻った時と節目、節目を継続して取材し放送に繋がった。

● 出席委員からの意見

- ・ 高橋卓也さんの書いた題字「響け！復興の槌音」に力強さがあり印象に残った。
- ・ 真面目に真摯に作られている番組で、「人だけは返してほしかった」など言葉のひとつひとつが印象に残った。
- ・ 取材された方の詳しい情報が伝えられていて、「寄り添う」という視点で作られた番組だと感じた。
- ・ 現実の厳しさをありありと伝えていた。
- ・ テレビに出てくる被災者の方は、割と元気な人が多い。そうでない闇に隠れている部分もあるのではないかな。事実を伝え、あえて偏らない、結論付けない番組があってもいいのではないかな。
- ・ 情緒的な感じで終わってしまい「検証」部分の掘り下げが足りなかったのではないかな。課題を抽出し、分析やデータをもとになぜ復興が遅れるのか問題提起してほしい。
- ・ 地域医療、交通の問題、孤児の心のケアなど問題はまだまだあるのに解決されないまま、尻つぼみになっていた。多くの問題にどう寄り添うべきか、それが課題ではないかな。
- ・ 国を動かすのは世論。テレビは、その世論を動かすことができる。  
「被災地のためにお金を使え」と国民が背中を押してくれるよう、メディアとして課題を訴え続けてほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

- \* 平成25年4月10日（水） 産経新聞 東北版
- \* 平成25年4月20日（土） 午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ批評」内で放送
- \* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし